

SHOW HEYシネマルーム

しあわせの隠れ場所

2009年・アメリカ映画
配給/ワーナー・ブラザース映画
128分

2010(平成22)年2月28日鑑賞

梅田ピカデリー

Data

監督・脚本: ジョン・リー・ハンコック

原作: マイケル・ルイス『ブラインド・サイド アメフトがもたらした奇蹟』(ランダムハウス講談社刊)

出演: サンドラ・ブロック/ティム・マッグロウ/クイントン・アーロン/キャシー・ベイツ/リリー・コリンズ/ジェイ・ヘッド/レイ・マッキノン

👁️👁️ みどころ

「実話にもとづく映画」は多いが、アメフト選手のサクセスストーリーそのままの本作が、アカデミー賞作品賞にノミネートされたのは意外。もっとも、直感力があり、行動力と突破力にも優れた魅力的な母親を演じたサンドラ・ブロックが、主演女優賞にノミネートされたのは当然?

「予定調和」の映画には何の意外性もないが、「しあわせの隠れ場所」をわかりやすくかつハートフルに確認するには、本作は最適?

ホントの話をそのまま映画にただけでは?

本作は第82回アカデミー賞作品賞にノミネートされた10本のうちの1本に入っているが、ホントの話をそのまま映画にしたのは本作だけ? まだ観ていないのが数本あるからそれは断定できないが、「ビッグ(太った)・マイケル」と呼ばれるのを嫌う黒人の大男マイケル・オアー(クイントン・アーロン)も、最初に彼を認め家族の一員として導き入れた、輝くような女性リー・アン・テューイ(サンドラ・ブロック)も、実在の人物。そして、リー・アンの夫ショーン・テューイ(ティム・マッグロウ)やその長女コリンズ・テューイ(リリー・コリンズ)、幼い弟S・J・テューイ(ジェイ・ヘッド)も実在の人物だ。したがって、全編を通じて展開される本作のストーリーは、ストーリーというより『ブラインド・サイド アメフトがもたらした奇蹟』の原作に書かれている、マイケルのサクセスストーリーを忠実になぞっただけ?

アメリカンフットボールの世界に疎い私は、ミシシッピ大学を卒業し、2009年4月25日のNFLドラフトで1巡目23位でボルティモア・レイブンズから指名されたマイケル・オアーという選手を全く知らなかったが、本作を観ているとマイケルはアメフトも

学業もトントン拍子。これはテューイ・ファミリーの一員として迎えられないという通常考えられない境遇がマイケルにもたらした幸運から生まれたものだが、それだけではなくマイケルの「保護能力」という秘めた才能と人並みはずれた努力があったことが本作を観ればよくわかる。

しかし、アメリカ人はもとより私もマイケル・オア選手が大成功したという客観的事実は知っているわけだし、彼が大成功するについてはこんなプロセスがあったということは『ブラインド・サイド アメフトがもたらした奇蹟』の原作に書かれているから、本作はホントの話をそのまま映画にただけ？そう考えると、それだけでアカデミー賞作品賞にノミネートされるのは、少し甘すぎるのでは？

テューイ家の経済環境は？

私は本作のアカデミー賞作品賞ノミネートには否定的だが、サンドラ・ブロックの主演女優賞ノミネートには肯定的。だって、本作にみるリー・アンの直感力、行動力、突破力には惚れ惚れさせられるから。本作ではまずショーンとリー・アン夫婦が住んでいる大邸宅に驚かされるが、それはショーンが貧しい家に育ちながらファストフード店の経営に成功し、今や85店舗のオーナーとして君臨しているという恵まれた経済環境のせい。

リー・アンは2人の子持ちだし、長女は母親と同じく大学でチアリーダーとして活躍することを夢みている年齢だから、普通ならおばさんくさくさなところもおかしくないところ。しかし、妻として母として家事全般をこなしながら、他方でシャネルのスーツ(?)をキリリと着こなした社交活動をするリー・アンの姿は何ともイキイキしている。テューイ家が住んでいるのはテネシー州のメンフィスで、ここは白人と黒人の区別がはっきりしているところ。またテューイ家が共和党支持者であることは日本人の私たちにも理解できるが、そんな思想的立場だからこそ、慈善活動や福祉活動にも熱心？しかし、それもこれもテューイ家が経済的に恵まれていることが大前提！

リー・アンの直感力と行動力と突破力に惚れ惚れ！

リー・アンがなぜ真冬の夜、Tシャツと短パン姿で歩いているマイケルに目を留めたのか、そしてなぜ彼を暖かい自宅に迎え入れたのかは、彼女の直感力の鋭さを示す大切なシーンだからお見逃しなく。そんな彼女には、次にはマイケルにベッドと部屋を与え、さらにマイケルをテューイ家の養子にするという決断力と行動力が備わっているからそれにも注目。さらに、昨今の府市統合の議論をみていると、橋下徹大阪府知事の突破力が顕著だが、リー・アンの突破力もそれに負けず劣らず顕著。それは、「ある事情」によって、マイケルに「あるマイナス情報」が入った時に起きる「ある問題」によって明らかになるが、さてその時に見せるリー・アンの突破力とは？

黒人ゾーンにリー・アンのような魅力的な白人女性が一人で入り込んでいくことはこの上なく危険なことで、一歩まちがえば大変なことになる可能性もあるが、リー・アンの突破力はそんな心配も無用なほどだ。そんな惚れ惚れする直感力、行動力、突破力を示すリー・アンを演ずるサンドラ・ブロックは、ひょっとしてアカデミー賞主演女優賞の本命？

アメリカでは、運転免許のテストは？

私は弁護士として交通事故の事件処理を36年間やってきたから、マイケルが運転免許が欲しいと言い始めた時のリー・アンとショーンの対応に注目したが、ボンと気前よくマイケルに車を買って与えるシーンにはビックリ。チューイ家には金はいくらでもあるだろうが、そうかといって養子の希望どおり車を買って与えるというのは、教育上いかがなもの？

それ以上に不思議なのは、マイケルが何のテストも受けないままいきなりこのマイカーで路上に走り出したこと。しかも、本来テストに合格し、初心者マークをつけて運転しなければならないはずのマイケルの車に、リー・アンは平気で息子のS・Jを乗り込ませたから、この点だけは私はリー・アンに対して批判的。そんな風に心配していると案の定・・・。

本作は、ファミリーとして迎え入れられたことによって実現したマイケルのサクセスストーリーだから、完全に出来レースとして後からそのプロセスを楽しめばいいのだが、スクリーン上に登場したあの交通事故で2人とも軽傷で済んだのはある意味奇跡。さらに、その瞬間マイケルの「保護本能」が働き、それによってS・Jの命が救われたというのちょっと出来すぎのストーリーでは？

マイケルのような未熟な若者に無条件で運転免許や車を与えることの危険性をはっきり示すとともに、車を運転する場合、音楽に興じたりアクションを演じたりするのは厳禁であることを、きっちり教えなければ。

卒業風景の日米比較

リー・アンがマイケルを発見したのはリー・アンの息子S・Jから白人の子供たちが通うキリスト教系の私立学校にマイケルがいたためだが、母親や父親との間に大きな問題を抱えていたマイケルがなぜそんな学校に通っていたの？また、マイケルは幼少期の半分を路上で過ごしていたこと、小中学校時代にはほとんど学校に行っていないことは、彼の昔の仲間(?)の姿をみれば明らかだが、そんな彼がなぜミシシッピ大学に入学できたの？そして、民主党支持者であることを名言するおばちゃん家庭教師ミス・スー(キャシー・ベイツ)の個人指導を受けると、なぜマイケルの学力がメキメキ上達したの？

日本では希望者全員が大学に入学できるヘンな時代になってしまったが、それ以上に悪いのは、日本の大学ではロクな勉強をせず、バイトと遊びで4年間を過ごしても卒業できること。近時予想どおりの問題点が噴出した法科大学院では、ついに姫路独協大学法科大学院への入学者がゼロになるという異常事態となったが、これからの法科大学院の統廃合は不可欠だ。

こんな体たらくの日本に対して、アメリカでは一定の学力がなければ卒業を認めないという制度が厳然と生き続けているらしい。そんな制度のためにマイケルはもちろんリー・アンも苦労するのだが、ミス・スーの猛特訓よろしくアメフトの能力だけでなく見事に卒業できる成績に到達したマイケルは立派。大学を「学問の府」ではなく、学生を商売のネ

タと考えている大学がはびこっている昨今の日本の事情を考えると、本作にみる卒業風景の日米比較は興味深い。

原題の意味は？アメフトのルールは？

私はアメフトの試合をスタジアムで1度だけ観たことがあるが、実はそのルールがよくわからない。しかし、アメフトのファンに聞くと、アメフトは体力勝負であると同時に非常に高度な知的ゲームらしい。そのことは、映画冒頭に登場する「4秒間の解説」でも明らかだが、実はそれを聞いてもよくわからない。さらに、本作は『しあわせの隠れ場所』といういかにもハートウォーミングな邦題だが、原題は『THE BLIND SIDE』つまり「死角、盲点」という意味だ。これがアメフト用語になった(?)のは、本作が描くスーパースター、マイケル・オアアの登場によるものらしい。それをきちんと理解するにはアメフトの基本ルールを学ぶ必要があるが、劇中で語られるS・Jやコーチ・コトン(レイ・マッキノン)の説明を聞いても私にはイマイチ。

もっとも、せっかく本作を観たのだから「ブラインド・サイド」を守ることをアメフトのゲームで考えるとともに、人生においてもあるはずの「ブラインド・サイド」を誰からどう守るのかという大切なテーマについても考えるきっかけにしたいものだ。ちなみに、アメフトのゲームで「ブラインド・サイド」を守るために求められるものは、恵まれた体格、幅広い尻、ごつい太もも、長い腕、大きな手、敏捷性らしいが、人生の「ブラインド・サイド」を守るために求められるものとは？

2010(平成22)年3月1日記

史上初の珍現象が！

『しあわせの隠れ場所』は星3つだから、本来『お薦め50作』には載らないのだが、サンドラ・ブロックが第82回アカデミー賞主演女優賞を受賞したためあえて掲載。評論に書いたように作品的には大したことはないが、ヒロインの直感力、行動力、突破力には惚れ惚れさせられるから、主演女優賞には納得！彼女の近時の活躍は顕著で、本作を含む近時3本の主演作はすべて全米興収1億ドルを突破し、09年度マナーメイキング・スターのトップの座に。しかし、こ

こまで露出すると逆にボロも目立つらしく、彼女は『オール・アバウト・ステイプ』で、09年の最低だった映画と俳優を表彰するラジー賞こと第30回ゴールデングラブ賞の最低主演女優賞に選ばれた。アカデミー賞とラジー賞を同時受賞するという珍現象は史上初！それにもめげず、彼女はラジー賞の授賞式ではユニークなスピーチを披露し、大喝采を浴びたらしい。清濁併せ呑む(?)大女優に拍手！

2010(平成22)年6月1日